

習熟度別学習で取組んだ「ひきざん」

齊藤 振一郎（札幌市立元町北小学校 教諭）

平成26年度、繰り下がりのある引き算の習熟を徹底するため、学年4学級を混ぜた6グループに分けて授業をした。いわゆる「習熟度別学習」である。

習熟度別学習に入る前に、まず一通り計算方法を学習した。その後、グループ決めのために繰り下がり引き算が20問あるプリントを2回行った。4学級どれも条件を揃えるため、2回とも計算時間は10分間と決めて実施する。

子供ごとに全問終了までの時間と得点は異なっている。今回の場合、2回のデータを使い大きく4つのグループに分けた。そして、その中でも最も教師の支援を必要とするグループを更に3つに分けた。こうして、6グループでの習熟度別学習が行われた。

今回の習熟度別学習では6単位時間の授業を行う。各グループでの指導の大枠（毎時間の指導パターン）は決まっていたが、具体的な指導は各担当教師に任されていた。そのため、各グループ毎の具体的な指導内容は判らない部分が多い。いちおう指導の大枠を紹介しておくと次の通り。

赤グループ（事前プリントが2回とも満点で、10分以内で終了…の子供たち）

計算25問プリント 2回

文章問題プリント 1回

文章を作る問題 1回

青グループ（同じく2回とも満点だが、10分をオーバー）

計算20問プリント 2回

文章問題プリント 1回

黄グループ（2回中1回は満点でないが、10分以内で終了 or オーバー5分未満）

計算10問プリント 1回

計算20問プリント 1回

文章問題プリント 1回

緑グループ（2回中2回とも満点でないか、オーバー5分以上）

計算10問プリント 1回

文章問題プリント 1回

※緑グループは、誤答数により更に緑1～緑3までの3グループに分かれる。
ただし、学習内容は3グループとも共通とした。

基本的には、まず1枚目の計算プリントを行う。次に2枚目の計算プリントを行い、文章問題のプリントを行ったら終了となる。もっとも、それだけでは早く終わりすぎてしまう赤グループは、文章問題のプリントの後に文章を作る問題も行った。決まった計算になるよう問題の文章を作るのである。

今回、私は緑3グループの担当をした。事前の計算プリントでの誤答数が最も多く、計

算に時間がかかる子供たちのグループである。そのため私は、以下の方針で緑3グループの6回の授業を行った。

1. 教師が横でアドバイスをしなくても、独力で計算を解く事ができるようになる。
※この場合の「独力で」とは、計算補助具（今回の授業では児童用百玉そろばん）を使う事も含まれる。
2. 上記1の結果、繰り下がり引き算を解く事に関して自信をもつようになる。
※最終的には自己肯定感を高める事につなげたい。

具体的な授業場面については私の個人サイトで紹介している。北海道師範塾のウェブサイトから私の個人サイトへ行けるようになっていたので、そちらを見ていただきたい。

※北海道師範塾トップ→理事一覧→齊藤振一郎／実践報告→齊藤振一郎のホームページ…となっている。

ところで事前に行ったプリントだが、1日で2回行ったのではなく、2日に分けて実施した。つまり、1日1回ずつ行った訳である。私が担任する学級では、それぞれ以下のような結果となった。

- | | | |
|-----|----------------|---------|
| 1回目 | 全問終了までの時間6分40秒 | 得点15.5点 |
| 2回目 | 全問終了までの時間6分40秒 | 得点15.3点 |
- ※欠席した2名を除く27名分の平均値。

習熟度別学習の終了後、また同じプリントを使い、同じ方法で2回の確認テストを実施した。その結果は以下の通り。

- | | | |
|-----|----------------|---------|
| 1回目 | 全問終了までの時間3分51秒 | 得点19.4点 |
| 2回目 | 全問終了までの時間3分23秒 | 得点19.2点 |
- ※29名分の平均値。

この結果を見比べると、明らかに計算力が高まったと言える。もちろん、繰り下がりのある引き算に限定されるが…。

また、平成26年度末に市販テストに含まれていた学力確認テストを行った。扱われていた内容と結果は以下の通り。

| | | | |
|---------|----------|--------|----------|
| 20までのかず | 正答率87.1% | ながさくらべ | 正答率94.6% |
| なんばんめ | 正答率90.5% | かさくらべ | 正答率97.6% |
| たしざん | 正答率96.4% | かたち | 正答率78.6% |
| ひきざん | 正答率93.3% | | |

「ひきざん」の方が、「20までのかず」「なんばんめ」「かたち」より正答率が良いという結果が出ている。もちろん、ここで行った「ひきざん」は繰り下がりのある引き算に限定した問題ではない。それでも、今回行った習熟度別学習の結果、繰り上がりのある引き算の計算力が高まった事で正答率が上がった…と言えるのではないだろうか。

小学校では、単純に計算力の向上が学力の向上につながる事も多い。そのため、このような習熟度別グループによる計算力向上の取組みは相当程度に有効と考えられる。習熟度別学習には批判も多いが、今後も検討を加えつつ取り組んでいきたい。